



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

92.11.17 No. 3692

大菅踏切で、またも遮断桿切損！ 運輸部ぐるみで事実を隠へい！！

くい違ふ事実 団交は混乱・中断



十月二日、痛ましい運転士の死亡事故が起きてから一カ月ほどしか経たないというのに、またも大菅踏切で、遮断桿が折損するという事故が発生した。動力千葉は、直ちに抜本的な踏切の安全対策を求めて、申し入れを行なった。ところが、団体交渉のなかで明らかにされたことは、支社運輸部ぐるみでこの事実を隠へいにかかるといふ恐るべき事態であった。

【衝突のまごころ】

組 十月二日に発生した大菅踏切の事故について事実関係を明らかにされたい。

当(運輸) 同日五時三十分頃、四二六M列車が、大菅踏切で遮断桿を押し上げていた人を発見し緊急停車し、聞いたところ「三〇分位前から遮断桿が下がったままの状態だったので持ち上げていた」ということであり、指令に連絡、現場に十一分停車し発車した。

当(信通) 五時四二分に遮断桿が折損したとの連絡を受け、現場に復旧を指示し、六時二〇分頃に遮断桿の交換作業を終了した。えっ！、運輸は遮断桿は折れていないと言ひ、信通は折れたから交換したと言つてつじつまが合わないが、どうなっているのか。遮断桿折損は実際あったのか無かったのか。

ていない。折れていたのは後で調査して判ったことだ。

組 信通では、五時四二分に遮断桿折損の連絡を受けたと回答しているが、どうなっているのか

当(信通) 五時三十分頃、大菅踏切の異常を信通指令で検知している。鳴動持続ということ調査手配をしているうちに、折れているとの連絡が入った。折れているという連絡は、五時四二分に輸送指令から受けている。

なお、異常検知については事実を調査したが、確認できなかった。キャタピラーなどが通ると異常鳴動することはありうる

組 信通は、輸送指令から折損で連絡を受けたと言っているが事実関係は一体どうなっているのか。輸送指令はどこから遮断桿折損の連絡を受けたのか。

当(運輸) 分からない……。

「切損はなかった」と言いはる現場長
しかし五時四二分に「切損」の通告券

組 輸送指令は、運転士からの申告によって把握する以外考えられないではないか。しかも銚子運転区と千葉運転区の現場長が

「断桿折損はなかった」「なかった事を確認した」と言い張り続けているのは何故か。何故現場長はウソをつくののか。

組 しかも、「折損は後の調査で判った」などと言っているが、われわれの調査によれば当日当該の運転士は、行き違いになる四二六Mの運転士に対し、「遮断桿が折れているから注意してくれ……」と明言しているし、

四二六M運転士は、佐原駅で「遮断桿折損」の運輸通告券を受領している。しかも、この通告券が指令から駅に送達されたのは五時四一分だ。

当 佐原で受けている……。

当(運輸) 通告券の内容は把握していない。

当(動力) (信通に対し) 輸送指令からの連絡は、はっきり折れているという内容だったのか？

当(信通) はい。

運輸部ぐるみで
もみ消しを謀ったのは明らか！

組 言っていることが全くおかしい。五時四一分に遮断桿折損の通告券が駅に送られているというところは、五時三十分の時点で、折損という報告があった以外考えられないではないか。

当(運輸) いや、後で調査の結果明らかにした。

組 それなら何故現場長はウソをつくののか。職場では、JR総連所属の当該運転士は、事故報告

を書いてからは、はっきりしたことを言わなくなった。「支社が『遮断桿折損』を事故報告から削れと言ってきたからだ」と言われている。死亡事故が発生してわずか一カ月ほどの間に、同じ踏切で同様の事態が発生した事を隠そうとして、運輸部ぐるみで事故の隠へいもみ消しにかかったとしか考えられない。

われわれは、
重大な決意で
臨む！

組 社員が死んでいるんだ。人命にかかわる問題でウソをつくのはやめる。大菅踏切事故以降、会社がやったことは、ピラマキなどキャンペーン運動とダンブの運転士が悪いということだけだ。これで踏切事故がなくなるはずがない。しかも今度はウソで事実をぬり隠そうとするなど断じて許すことはできない。このような態度を続けるならばわれわれは重大な決意で臨む。われわれは、あらゆる手段で事態を世間に訴え、組合員の生命を守らなければならない。

当 時間のやりとりなど、判らない部分、事実として把握していない部分があり、勉強不足であったと言われるかもしれないが、輸送指令の問題、通告券の問題、現場長云々も含めてきちんと整理したうえ再度団体交渉を行いたい。(つづく)